



## 日頃の備え 帯広市の地理的な特性

自然災害は大きく、地下深くの地球活動による「地象災害」と、大雨などによる「気象災害」に分けられます。地理的な特徴と災害リスクを把握しましょう。

### 活火山

概ね過去1万年以内に噴火した火山及び現在活発な噴気活動のある火山のことで、全国に111あります。十勝周辺の活火山のうち「十勝岳」と「大雪山」、「雌阿寒岳」が「火山防災のために監視・観測体制の充実等が必要な火山」として、火山噴火予知連絡会に指定されています(全国で50火山)。

### 海溝と活断層と地震の関係

地球の表面は「プレート」と呼ばれる板のような岩の層で覆われていますが、深海でプレートが沈み込んでいる溝状の地形を「海溝」と言います。

海のプレートは陸のプレートの下に年間数cm～10cm程度沈み込んでいきますが、このプレートの境界に位置する海溝沿いで発生する地震が「海溝型地震」です。

また、プレートの移動で陸のプレートが圧縮され、強度が弱い場所(=断層)が崩れて動くのが「内陸型地震」です。「断層」のうち、特に数十万年前以降に繰り返し活動し、将来も活動すると考えられる断層が「活断層」です。

### 十勝の活断層

十勝には、十勝平野のほぼ南北に分布する活断層「十勝平野断層帯」があります。

「十勝平野断層帯主部」と「光地園(こうちえん)断層」からなり、十勝平野断層帯主部は、足寄町から帯広市などを経て幕別町忠類に至る断層帯で、長さは約84kmとされています。光地園断層は大樹町から広尾町に至る断層で、長さは約26km、北西-南東方向に延びています。帯広市内の活断層の状況は22ページをご覧ください。

### 帯広市を流れる河川

帯広市は、十勝平野のほぼ中央部に位置し、市街地北部に十勝川、東部に札内川が流れるなど、市街地付近に河川が集中しています。

### ●十勝・帯広周辺の活断層と活火山、海溝



### ●十勝・帯広市内の河川



★洪水予報河川 ★水位周知河川



## 日頃の備え 帯広市の過去の災害発生状況

地震はいつ発生するか分かりませんが、水害は注意すべき時期があります。日頃から災害に備えるため、帯広市の過去の災害発生状況を把握しましょう。

### 地震

帯広市では、大正8年(1919年)以降、これまでに震度5以上の地震を6回観測しています。このうち、海洋を震源とした地震は4回(十勝沖3回、釧路沖1回)、内陸部を震源とした地震は2回となっています。

### ●大正8年(1919年)以降に帯広市内で震度5以上を観測した地震

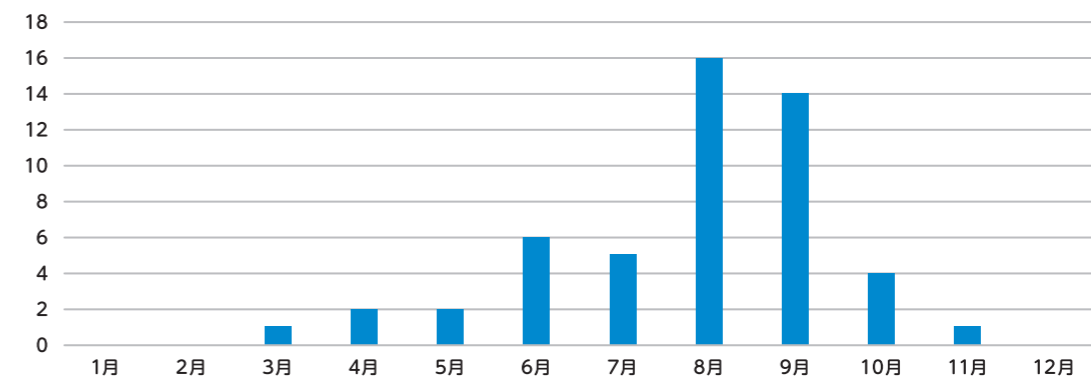
出典:気象庁「震度データベース検索」  
※マグニチュード

	発生年月日	震央	規模(M※)	帯広の震度
1	昭和27年(1952年) 3月4日	十勝沖	8.2	5
2	昭和37年(1962年) 4月23日	十勝沖	7.1	5
3	昭和45年(1970年) 1月21日	十勝地方南部	6.7	5
4	平成5年(1993年) 1月15日	釧路沖	7.5	5
5	平成15年(2003年) 9月26日	十勝沖	8.0	5強
6	平成25年(2013年) 2月2日	十勝地方南部	6.5	5弱

### 水害

大正2年(1913年)以降の帯広市で発生した水害を月別にみると、約9割が6～10月に発生し、そのうち特に台風シーズンの8、9月だけで約6割を占めています。また、春先には融雪に伴う水害も発生しており、厳冬期を除いて水害のリスクがあることが分かります。

### ●帯広市内の月別水害発生回数 大正2年(1913年)以降



### ●避難所を開設した水害



昭和56年(1981年)8月  
台風12号  
床上浸水11件  
床下浸水70件



平成28年(2016年)8月  
台風10号  
床上浸水3件  
床下浸水24件  
中島町で戸蔭別川が氾濫  
橋梁崩落2橋